鹿児島研修

沖縄研修

平成２７年度
青少年平和交流事業
報告書

長崎市

広島研修

平成２７年度

青少年平和交流事業

■主催　長崎市
■後援　長崎県教育委員会
　　長崎市教育委員会

趣旨

　長崎県内の青少年が研修・交流活動をとおして、お互いの連携と友情を深めながら平和の尊さと社会参加の意義を学ぶことを目的としています。

派遣研修

　青少年ピースボランティア育成事業登録者を対象に、国内の平和関連施設の見学、平和行事への参加、意見交換会などを長崎市が企画して派遣し、旅費を支給します。

～目次～

■鹿児島研修　平成２７年１２月１２日(土)～１３日(日)　P.2

■沖縄研修　平成２８年　１月　９日(土)～１１日(月・祝)　P.5

■広島研修　平成２８年　２月　６日(土)～　７日(日)　P.9

※青少年ピースボランティア育成事業は、１５歳(中学卒業)以上３０歳未満の青少年を対象に、被爆の実相や戦争について学び、さまざまな視点から平和について考え、行動することによる被爆体験の継承と、平和意識の高揚を目的として実施しています。

鹿児島研修

■期間　　平成 27 年 12 月 12 日（土）～13 日（日）
■研修員　10 名（社会人 1 名　大学生 5 名　高校生 4 名）

■研修の目的

・特攻隊に関する資料館などの見学を通して、太平洋戦争末期に多くの若者が戦争に動員され、犠牲になった事実を学習し、戦争の悲惨さを継承していくことにつなげる。
・鹿児島の青少年との交流を通して知識を深め、平和活動に役立てる。

■事前学習

知覧特攻平和会館発行の「“特攻作戦”は何故行われたか」等を使用し特攻について学ぶとともに、当日の役割分担や意見交換の際に使用する特攻及び長崎原爆に関する手記等の選択を行いました。

■行程

12/12	12:30	知覧特攻平和会館見学
	14:15	富屋食堂（ホタル館）見学
	15:00	薩南工業高等学校の生徒との意見交換・交流会
12/13	9:30	鹿児島県歴史資料センター黎明館見学
	11:10	太平洋戦争民間犠牲者慰霊碑「人間之碑」見学

知覧特攻平和会館

■爆装した飛行機もろとも敵艦に体当たり攻撃をした陸軍特別攻撃隊員の遺品や、関係資料を数多く展示しています。
■研修員は特攻隊や家族に対する想いを深く学び、それらから各自の日常のありがたさを改めて考えさせられました。

富屋食堂（ホタル館）

■富屋食堂は、かつて特攻の母として慕われた鳥浜トメさんの食堂であり、トメさんの生涯と特攻隊員とのふれあいの遺品・写真を展示しています。
■研修員は、トメさんと特攻隊員達とのやりとりが書かれた展示物から、トメさんが隊員達にどれだけの愛情を注ぎ慕われたのかを感じ取りました。

薩南工業高等学校との意見交換・交流会

ピースボランティアの発表〉

薩南工業高校の発表〉

■知覧特攻平和会館の近くにある薩南工業高校では、生徒会の皆さんと交流会を行いました。レクリエーション、ピースボランティアや長崎原爆実相の紹介に続き、今後自らが戦災の実相を継承し発信するための企画案をお互いに発表し合いました。

■この後班別に、研修員が事前に選んだ特攻と長崎原爆に関する手記・遺書を読んで感じたことを話し合いました。
■人々が平和について知るきっかけや環境を作ることが大切だと考える人が多くいました。薩南工業高校側からは、知覧の遺構ガイドや、平和に関する建築物を造ることといった学科の強みを生かした提案が挙げられました。

研修員の感想

・ホタル館では鳥浜トメさんが特攻で生き残った人たちに向けて残した言葉が心に残った。それは、「なぜ生き残ったのか考えなさい。何かしなくてはならないことがあって生かされたのだから。」というものである。これは現代に生きる私たちにも言えることであると思う。自殺まで考えてしまうほど抱え込む人が多い現代であるけれどもこの言葉のように自分が生きる意味はあると思う。

・交流した薩南工業高校の人が平和学習はあまりないと言っていて、平和学習に対する温度差があると感じた。そのため、被爆した方々や戦争を知っている方々が生きている間にたくさんの人が戦争の恐ろしさを知り、語りついでいかないといけないと思った。私は今まで長崎原爆のことについてしか学んでいなかったが、今回の研修で他の地域の戦争について学べました。この研修で学んだことをこれからのピースボランティアの活動や平和活動に生かしていきます。

・今後私たちができる事は、学んだこと、感じたことを発信し続けなければならないということを、1 人でも多く伝え続けることです。世界の中の日本という国の小さな県に住む私たちでは、伝えられることは限られると思います。しかし、伝えようとし、懸命に頑張る姿を見てもらうだけでも、人々には伝わるものがあると思います。それを信じて目の前の課題にぶつかっていくことが最初の一歩だと思います。そして、心に伝わるものを提供するには、確かな根拠が必要だと思います。そのためにまず、私たちがこれまでの歴史について学び、戦争までの歴史もしっかりと理解しておかなければなりません。私自身もこの研修において、歴史を学ぶことの大切さを学びました。これらのことを一日一日、まずは小さな一歩から進めていくことで、それが未来の人々のためにもなっていくのだと思います。

沖縄研修

■期間　　平成 28 年 1 月 9 日（土）～11 日（月・祝）

■研修員　7 名（大学生 3 名　高校生 4 名）

■研修の目的

・沖縄戦の戦跡や資料館の見学などをとおして、太平洋戦争の住民を巻き込んだ地上戦の実相や、同じ年代の当時の学生が看護部隊などとして沖縄戦に関わったことを学習する。

・沖縄の同年代の高校生の平和への思いに触れ、戦争体験を継承していくことについて意見交換を行う。

■事前学習

DVD「沖縄の証言」鑑賞及び、行程に沿った各訪問先の説明等

■行程

1/9	14：00	沖縄尚学高校生徒による白梅学徒隊の足跡を辿るフィールドワーク（八重瀬町～糸満市）
		①八重瀬公園（本部壕、手術場壕跡）、②白梅の塔
	15：30	平和祈念公園散策（糸満市）
		平和の礎、平和の火など
	15：55	沖縄県平和祈念資料館見学（糸満市）
	18：30	沖縄戦体験講話聴講（那覇市）
1/10	9：00	ひめゆり平和祈念資料館見学（糸満市）
		祈念館説明員による沖縄戦講話聴講
	11：00	糸数の壕（アブチラガマ）見学（南城市）
	13：30	首里城（第 32 軍司令部壕跡）見学（那覇市）
	15：00	佐喜眞美術館（宜野湾市）
	16：20	嘉数高台公園（宜野湾市）
		トーチカ跡、青丘之塔、京都の塔
1/11	9：30	沖縄尚学高校地域政策研究部との意見交換・交流会

沖縄尚学高校生徒による白梅学徒隊の足跡を辿るフィールドワーク

■白梅学徒隊は、八重瀬岳にあった第一野戦病院で看護に当たりました。尚学高校では、この学徒隊のことを後世に伝えるため体験者本人に代わってガイドを務めています。

平和祈念公園

■園内には、国籍や軍人、民間人の区別なく沖縄戦で亡くなられた24万人余の人々の氏名が刻まれた「平和の礎」や、沖縄、広島、長崎の火を併せた「平和の火」などがあります。

沖縄県平和祈念資料館

■資料館には、沖縄戦への道、鉄の暴風、地獄の戦場、証言、太平洋の要石に分けた展示室に、遺品、映像など多くの資料が展示されていました。

沖縄戦体験講話

■講話者の上原美智子さんは、当時国民学校３年生でした。避難した壕の中で下の弟が泣き出した際、普段は優しかった近所の人から「出ていけ」と罵声を浴びせられ、それが今でも脳裏について離れないという体験をされ、戦争になると、人間の心は奪われてしまうことを語ってくださいました。

■研修員は、上原さんの、本当は話したくないけれども、平和は当たり前でないことを伝えるために講話するという熱い想いを受け、今後さらに戦争や平和について学んでいく必要があることを実感しました。

ひめゆり平和祈念資料館

■平成27年3月で終了した証言員による講話を引き継いだ「説明員」による、沖縄戦講話を聴講。宮城喜久子さんの証言映像を用い、その前後で説明員の尾鍋さんが、ひめゆり学徒隊の概要や宮城さんの人柄等を伝えるという講話形式をとられていました。

■資料館では、沖縄戦で犠牲になった２００余名のひめゆり学徒、教師の遺品や写真が展示されています。

糸数の壕（アブチラガマ）

■糸数の壕は全長が２７０ｍの自然洞穴で、戦争中、住民の避難場所や南風原陸軍病院の分室として使われました。
■研修員は、もう助かる見込みのない人を収容する所の話を聞いて、暗闇の中で無念の死を遂げた人たちのことを思い、涙が止まりませんでした。

佐喜眞美術館

■館長より、丸木位里・俊夫妻作『沖縄戦の図』の説明を受け、沖縄戦に人間の尊厳がなかったことや、真面目に間違ったことをした事実を教訓とすることなどを学びました。その後、美術館屋上にて、隣接する普天間基地についての説明も受けました。

首里城（第 32 軍司令部壕）

■首里城には地下に掘られた第３２軍司令部壕跡入口や当時の銃弾跡が残された城壁があります。

嘉数高台公園

■激戦地となったこの場所には、トーチカ跡や、この地で犠牲者の多かった京都出身の方を祀った京都の塔、韓国出身の方を祀った青丘之塔があり、黙祷を行いました。

沖縄尚学高校（地域政策研究部）との意見交換・交流会

■研修員より被爆の実相を紹介した後、尚学高校から、地域政策研究部でまとめた核兵器の現状についての発表がありました。その後の話し合いでは研修員が事前に選んだ沖縄戦と長崎原爆に関する手記を読んで感じたことを話し合いました。
■その中にはひめゆり学徒隊に比べ、なぜ鉄血勤皇隊（男子学徒隊）の資料が少ないかなどの疑問を尚学高校の生徒さんに行い、共に理解を深めました。

研修員の感想

・私がこの研修で印象に残った言葉があります。それは、「恐ろしいのは真実を知らない」ということです。当時の住民の方は、米兵の捕虜になると男は引き裂かれ、女はおもちゃにされると教えられ、捕虜になるのを拒み続けましたが、いざふたを開けてみれば、治療を行い、食糧を与えてくれるということがあったそうです。そのため今後は、「知らない」を「知っている」に変えて行くことが必要だと思います。

・この研修を通し、知らないことがたくさんあると実感し、また様々な人に、この沖縄戦の事実を知ってほしいと思いました。私たちは、今回学んだことを伝えて行かなければならないと思います。しかし、伝えるのであれば、しっかり正確に伝える必要があります。私自身、現段階ではまだ知識不足であったり、感じ取れていなかったりという部分もあると思います。今後、人に伝えていくためには、もっと勉強をすることも必要ですが、今回のように既に学んだことをすぐに伝えることも大切だと思います。そこから自分たちが感じたことを伝えることで、沖縄戦や戦争の実相に興味を持ってくれる人がいると思うからです。

・私はさらに学び、意見を交換することが大切だと思いました。ただし、一人一人が自分の意見を持ち、話し合うことは困難で、若者であればなおさらだとも考えます。そのため、まずは学んでいきたいと思いました。今回はとても限られた短い時間の中での研修で、学んだことはほんの一部にすぎないはずです。時間のある学生時代に目標ができたのは、この研修の一番の収穫です。

・戦争経験者が少なくなっている今、私たち若い世代が戦争の真実を知り、後世へ語り継ぐべきであり、戦争のない平和な世界を作りあげなければなりません。そのためにも、今回の研修で学んだことを多くの人々に知ってほしいです。これからも私は平和に貢献します。

広島研修

■期間　　平成 28 年 2 月 6 日（土）～7 日（日）

■研修員　10 名（大学生 7 名、高校生 3 名）

■研修の目的

・同じ被爆地である広島の資料館や、被爆建造物等の見学を通して、広島の被爆の実相を学ぶ。

・広島の平和活動に取り組む青少年との交流を通して知識を深め、平和活動に役立てる。

■事前学習

DVD「夏服の少女たち」鑑賞と、スライドによる広島原爆の概要説明

■行程

2/6　12：50　広島平和記念資料館

被爆体験伝承者の方による体験講話

15：30　国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

2/7　9：00　広島 中・高校生ピースクラブとの交流

①意見交換・交流会

②平和記念公園周辺のフィールドワーク

（原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像、原爆ドーム）

③旧日本銀行広島支店と袋町小学校見学

広島平和記念資料館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

■追悼平和祈念館は、遺影や体験記を閲覧室等で公開しています。また、原爆投下後の広島の街が表された死没者追悼空間もあります。

■常設展示の観覧の後、3 か年の養成を受け、平成 27 年 4 月から活動を開始した「被爆伝承者」の定期講話を聴講しました。

■研修員は、被爆伝承者のように非体験者による講話について、難しいとは思うけれども、自身の勉強のためにも取り組んでみたいと感じました。

広島 中・高校生ピースクラブとの意見交換・交流会

■広島で「サダコと折り鶴ポスター展」などの平和活動に取り組む中・高校生ピースクラブとのレクリエーション、手記を使った意見交換会を行いました。
■研修員は、自分たちより若い中学生が真剣に話を聞いたり、自分の意見をしっかり述べたりしていたので、平和に対する意識が強いと感じました。

ピースクラブによる平和記念公園周辺フィールドワーク

■原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像、原爆ドームを訪れ、それぞれの場所を、同世代であるピースクラブから解説をしてもらい、広島原爆への理解を深めました。

袋町小学校平和資料館

■原爆投下直後からの被爆者の消息などを知らせる「伝言」が保存されています。医学者マルセル・ジュノー氏も治療にあたった、かつての救護所の様子を資料館の方から説明していただきました。

旧日本銀行広島支店

■現在は広島市指定重要文化財となり、催しも開催されるこの建物は、爆心地から 380ｍで奇跡的に崩壊を免れ、8 月 8 日から営業を再開し街の復興を支えました。今回は、被爆した瓦や被爆者が書いた絵を見学しました。

研修員の感想

・広島のピースクラブさんとの交流時には、手記を読むことで被爆者の気持ちに寄り添いながら、心境などの内部的なところまで感じ取りました。また、互いに感想や意見を述べ合うことで、違う視点で読むこともでき、他の考えを知ることができたところもよかったです。

・今私たちが楽しく生活できるのは、被爆者の方々が希望を捨てずに復興作業をしてきたからだと思い、もう二度と繰り返されることがないように、たくさんの人に原爆の恐ろしさや戦争の怖さを伝えて行きたいです。また、家族と一緒に暮らすことができることや友達と遊べることを当たり前と思うのではなく、とてもありがたいことだと思い、日々生活しようと思いました。

・今回初めて広島で伝承者による被爆体験講話をしていることを知りました。本当に被爆者の声を直接聞くことができなくなってきているんだと実感しました。講話をして下さった方々はとても分りやすく話して下さり感動しました。研修以前は、自身ではどこまで原爆について伝えられるのだろうと思っていましたが、この講話を通して、もっと家族や友達、たくさんの人に戦争について、原爆についてちゃんと伝えることができるはずなんだと自信がつきました。そのために 2 日間で学んだことを忘れず、正しい理解を深め、語り継いでいきたいです。

・戦争体験者の高齢化が進む中、被爆 2 世 3 世、次世代の若者による被爆体験講話の伝承というのがこれまでよりもますます大事になってくるのではないかと思います。私たちは被爆者の代役にはなれないかもしれません。しかし被爆者の思いや願いは伝えることができます。私たちにできることは何かを改めて考え、行動に移して行きたいと思います。

研修報告会&手記展示会 2016.3.12(Sat)

鹿児島、沖縄、広島の３県へ派遣研修を行い、学びで終らず、発信者となることを目的に、研修で学んだことの報告会を行いました。また、研修ではそれぞれ薩南工業高校、沖縄尚学高校、広島中・高校生ピースクラブとのそれぞれの意見交換会を行い、その際に各地の戦災にまつわる手記等と長崎原爆の手記を読んで感想を述べ合いました。そして、これらの手記と感想を活かした企画立案を研修員自身が考え作成し、「展示会」を開催するに至りました。

■青少年ピースボランティア派遣研修報告会及び手記展示会

日時：平成２８年３月１２日(土)　９：００～１７：００

（報告会は、１回目：１１：００～３０、２回目：１４：００～３０）

場所：長崎原爆資料館　地下１階平和学習室

～開催にいたるまで～

会場レイアウトを思案

開催前日のパネル展示作業

■広報チラシ・ポスター

市内学校や公民館、市役所、図書館等に送付・設置したほか、広報ながさきの「今月の予定」にも掲載されました。

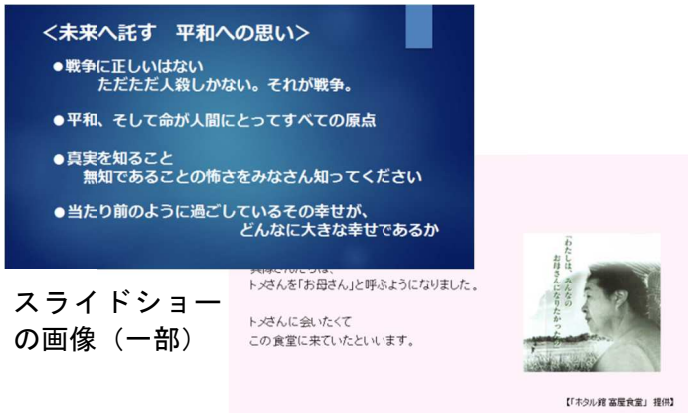
■最初の研修地であった鹿児島研修員の企画班の原案を基に、他の研修地の企画班や研修員全体と連携し、企画展までの日程や役割分担を行いました。展示会の趣旨や展示会場のレイアウト、広報に至るまで、手作りで仕上げています。

■企画展の趣旨：

①戦争を風化させない、②当時の人々の思いを感じ取ってもらう、③平和を考えるきっかけにしてもらう、④当時の日常を知ってもらい身近に感じてもらう、⑤若い世代が多くの人々に伝える

～そして本番!!～

■報告会は、2 回に分けて行いました。訪問先で学び得たことや、特攻隊のエピソードや広島伝承者のことなどの報告も行いました。



スライドショーの画像（一部）

■展示会では、パネル展示に加え、各地の今昔を写真で比較したものや戦争体験者をピックアップしたスライドショーを常時放映し、長崎を含めた 4 都市の平和関連施設のパンフレットや研修時に撮影した写真などを机上に設置しました。

■当日は、県内外から 78 人の来場がありました。じっくり観覧する方も多く、3 か月にわたって企画や準備を行ってきた研修員の思いが通じる手記展示会となりました。

■アンケートの声

・展示がきれいに整理されて見やすかったですし、実体験をもとにした手記は、親近感がわいた。
・ここに訪れて、命の大切さを真剣に考えるようになりました。戦争は二度としたくない。
・このような伝える活動は大切だと思いますが、なかなか行動には移せていないので、ぜひ続けてほしいですし、いつか私も携わりたいです。
・手記を読むと、当時の景色が思い浮かぶようでした。その時の感情がよく分かる、すばらしい展示物だと思います。

平成２７年度　青少年平和交流事業　報告書

発行　長崎市　被爆継承課　平和学習係

所在地　〒852-8117　長崎市平野町 7-8
電話番号　095(844)3913
ＦＡＸ番号　095(846)5170

Facebook 長崎平和・原爆はこちらから！→